

夫が若いときから抱いていた大きな夢が実現

「自分の好きな画家の作品だけを展示する美術館を」という長年の夢を実現させた鈴木さん夫妻。夢の始まりは、今から33年前、夫の喜八郎さんが25歳のときに札幌市で開かれていた画家・野本醇さん（72歳・伊達市在住、主体展・全道展会員）の個展を訪れたことがきっかけです。そのとき、野本さんの作品から強い衝撃を受けた喜八郎さんは、その後いろいろな画家の個展や美術館を巡りますが、野本作品への興味はますます募るばかりでした。

喜八郎さんは、昭和44年に康子さんと結婚。「結婚した翌年に夫から将来野本醇の作品を集めた美術館を造りたいと打ち明けられたんです」と康子さん。以来約30年にわたり野本さんの作品を収集。

一昨年、20年間住み続けた自宅を改造し、空調・照明設備を入れるなどして、待望の美術館が完成しました。

美しい山々や海、川。
登別はまるで
自然美術館のよう

美術館の名称は野本醇さんの代表作の画題から。昨年7月に開館して以来、国内外から約500人もの



方が同館を訪れ「特に宣伝をしていませんが、外国の方も多くみえました。中にはアメリカのニューヨークから通訳の方を伴って来てくれた方もいます。小さな私設美術館ですが、登別から全国・全世界に文化発信ができるのです」と康子さんは目を輝かせます。

「登別は、オロフレなどの山々や、海、湖、川などきれいな景色に恵まれ、まるで自然美術館のよう。この宝石をちりばめたようなまちに美術館を造ることができて幸せです。心象絵画の世界を表現する野本作品の変遷を多くの方に見ていただきたいですね」。

開館は、土・日曜日、祝日の10時から16時30分まで。

住所：登別本町2丁目21-4
☎832788。入館料は無料。

きらり

KIRARI

すず き やす こ
鈴木康子

さん(登別本町)

登別本町の鈴木喜八郎さん・康子さん夫妻が、自宅を改造し、お気に入りの画家・野本醇さんの作品を展示する私設美術館を昨年開館しました。その名も『野本醇 北の箱舟美術館』。

室蘭市の企業に勤める会社員の夫を助け、副館長として館の運営に携わる鈴木康子さんに話を聞きました。

登別の小さな美術館から世界へ向けて文化の発信ができれば

昭和21年、京極町生まれ。

昭和44年に夫で館長の喜八郎さんと結婚。昭和55年から現在地に居住。副館長として来館者に対応するかたわら、車庫を改造したアトリエで絵画の創作に励む。平成10年に第53回全道展奨励賞を受賞。

